

◆実践問題9◆

(中国に貧しい夫婦がいた。夫が道で軟挺を六つ拾って、家に持ち帰った。)

妻 心すなほに欲なき者にて、「我らはあきなう

て過ぐれば事もかけず。この主、いかばかり嘆き

求むらむ。いとほしき事なり。主を尋ねて返し給

へ」と言ひければ、「実に」とて、あまねくふれけ

るに、主といふ者出で来て、これを得て、あまりに

うれしくて、「三つをば奉らん」と言ひて、既に分

つべかりける時、思ひ返して、煩ひを出ださんた

めに、「七つこそありしに、六つあるこそ不審なれ。

一つをば隠されたるにや」と言ふ。「さる事なし。

もとより六つなり」と論ずるほどに、はては国の

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

守のもとにしてこれをことわらしむ。国の守、眼

さかしくして、この主は不実の者、この男は正直

の者と見て、判にいはく、「この事、確か証拠な

ければ判じがたし。但し、ともに正直の者と見え

たり。夫婦また、言葉違はず。主の言葉も正直に聞

こゆれば、七つあらむ軟挺を尋ぬべし。これは六

つあれば別の人のにこそ」とて、六つながら夫婦

にたびけり。宗朝の人、いみじき成敗とぞあまね

くほめののしりける。